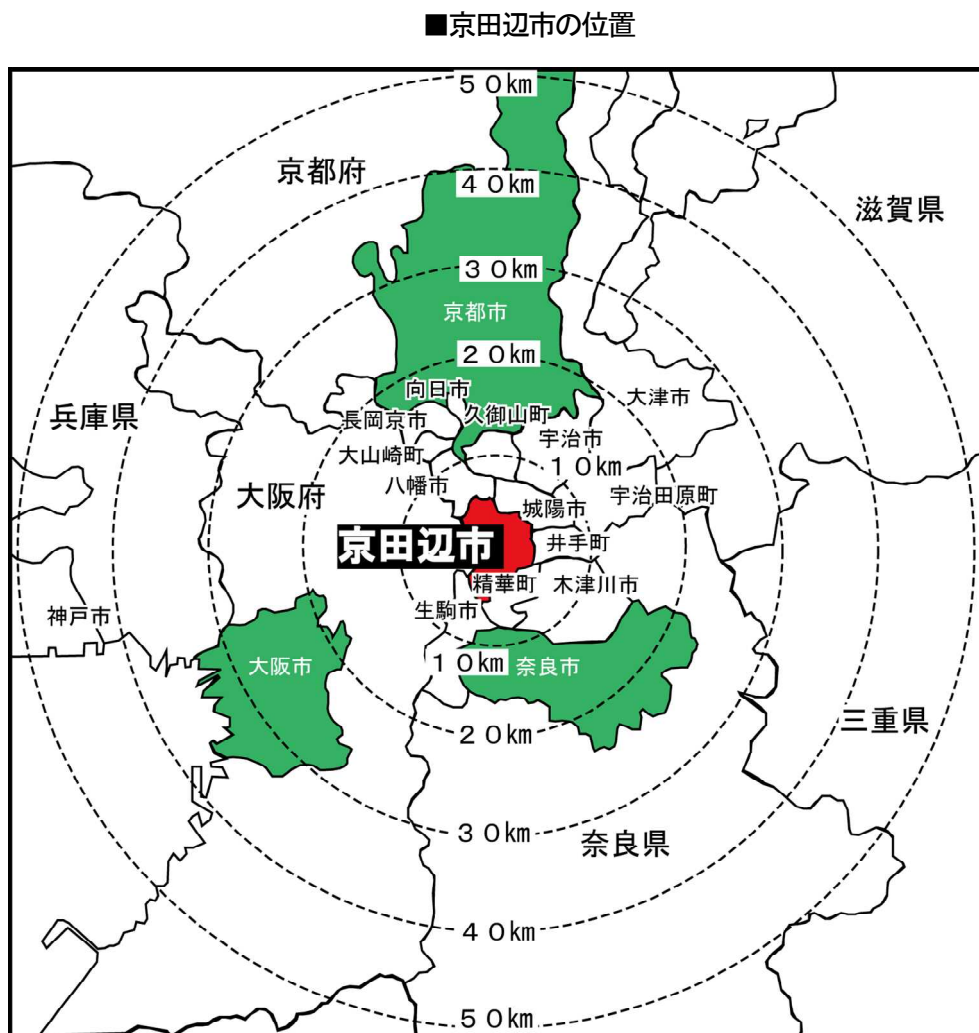


第2章 京田辺市産業を取り巻く状況

1 京田辺市の概況

(1) 土地利用の概況

京田辺市は、京都府、大阪府、奈良県にまたがる京阪奈丘陵部の北東部に位置し、京都市、奈良市の中心部から約20km、大阪市の中心部からは約30kmと、大都市の間に位置しています。



(資料) 京田辺市「京田辺市都市計画マスタープラン」(平成23年4月)

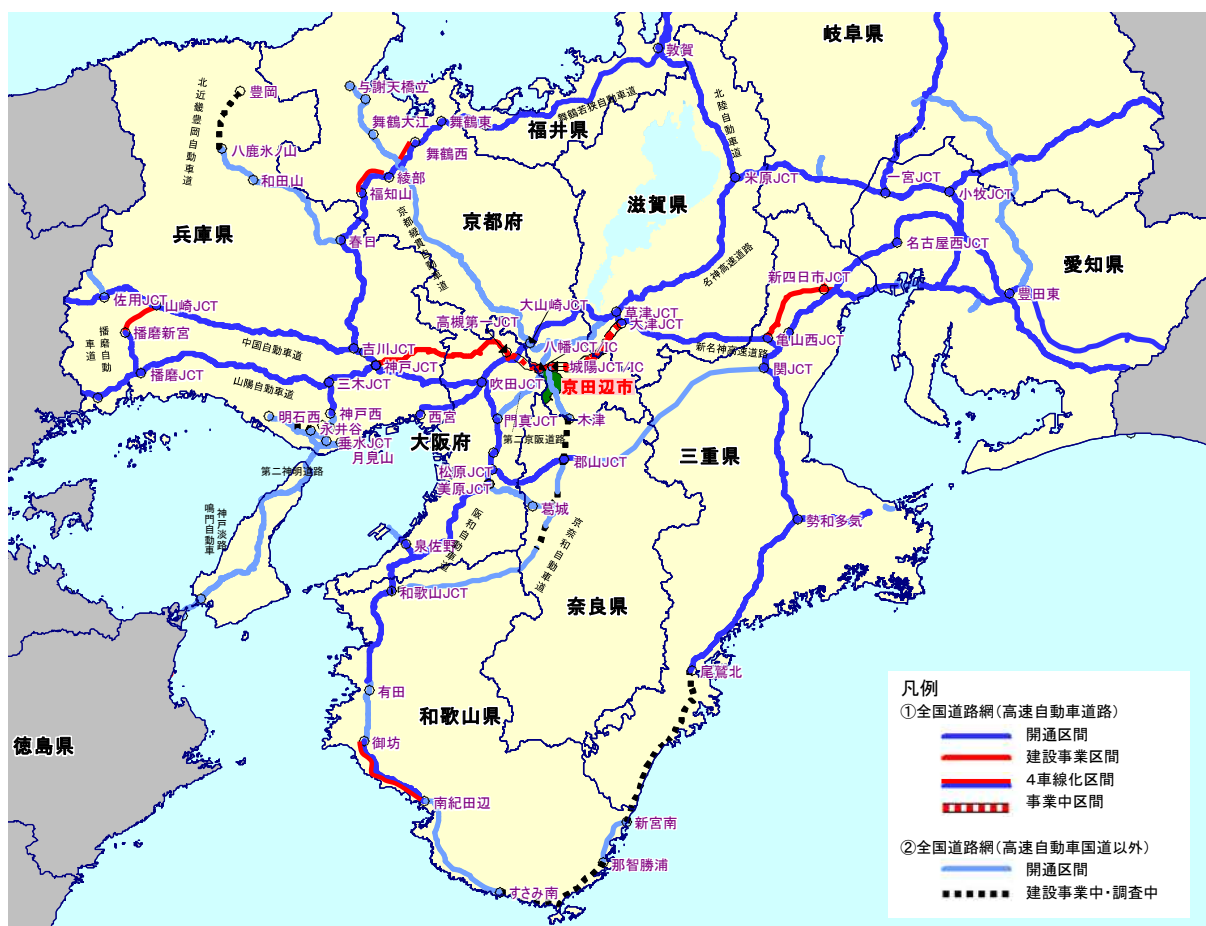
(2)交通ネットワークの概況

強み：主要都市への良好な交通アクセス

京田辺市は、京都と奈良を結ぶ近鉄京都線、大阪と奈良を結ぶJR片町線（学研都市線）の鉄道が通り、市内中心部からは京都市内に約25分、大阪市内に約45分、奈良市内に約20分と、各都市へのアクセスが良好な条件を備えています。

また、本市を南北に縦断する京奈和自動車道に加え、第二京阪道路が開通し、関西国際空港への所要時間が約70分になるなど、主要都市等への時間的距離の短縮化が図られています。今後、新名神高速道路の建設が促進されることにより、名古屋方面へのアクセスもさらに向上し、交通結節機能の一層の充実が期待されます。

■広域道路交通計画



(平成28年2月現在)

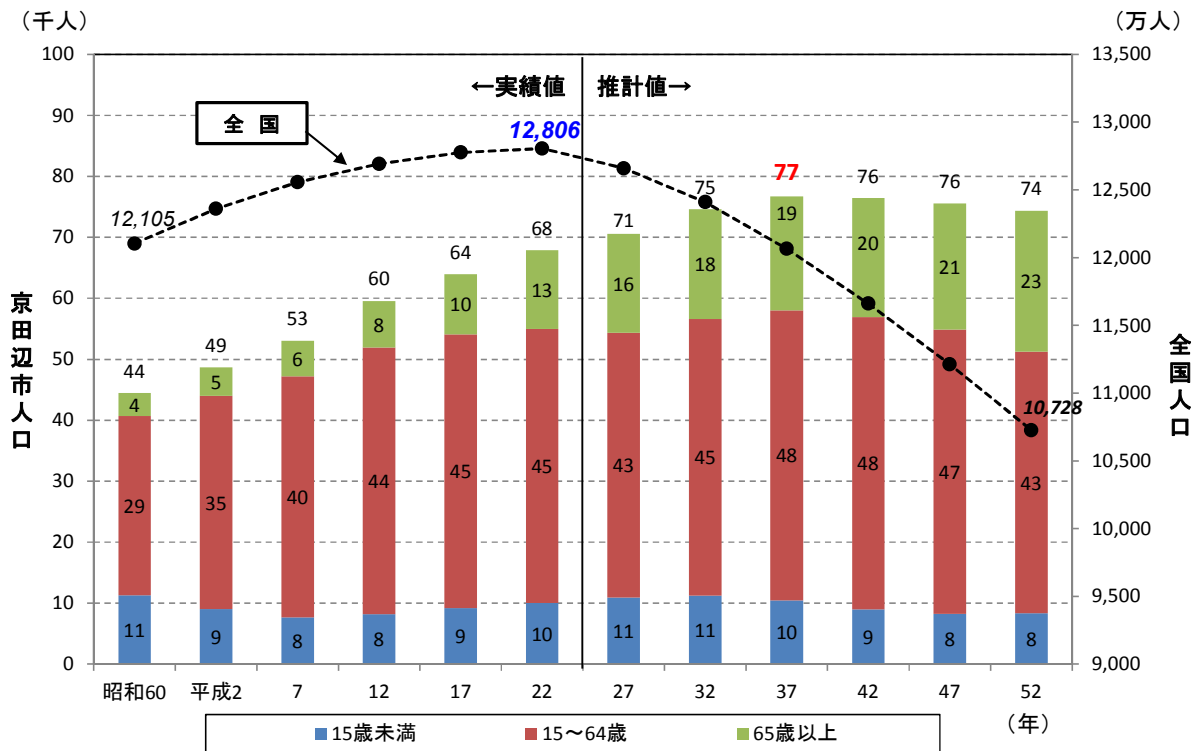
(3)人口推移

強み：全国でも数少ない人口増加都市

脅威：高齢化の進行で、人口の自然減少が京田辺市でも間もなく始まる可能性

全国においては、平成22年頃をピークに、既に人口減少局面に移行していますが、京田辺市の人口は、依然として増加傾向で推移しており、本市の推計では、平成37年頃まで増加するものと見込まれています。

■総人口の推移と見通し



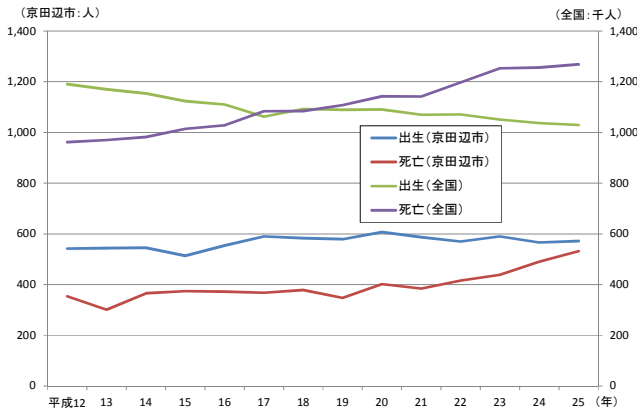
注：1) 実績値(昭和60年～平成22年)は総務省「国勢調査」、推計値(全国)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の中位推計、推計値(京田辺市)は「京田辺市将来人口推計(平成26年3月)」による。

注：2) 総数には年齢不詳を含まない。

(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」、京田辺市「京田辺市将来人口推計(平成26年3月)」

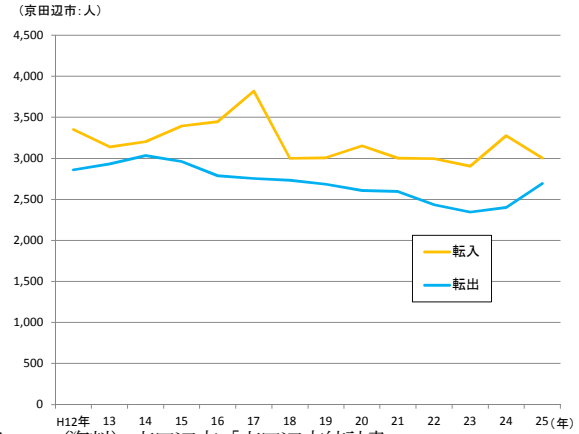
京田辺市では、出生数が死亡数を上回る状況で推移しており、自然増となっています。ただし、出生と死亡の差は縮まりつつあり、将来的には自然減となることが予測されます。社会増減の動向をみると、平成12年以降では、一貫して転入超過で推移しています。転出数が減少傾向で推移する中で、転入者数は平成18年以降横ばいで推移し、平成24年には、比較的大きく転入超過数が拡大しましたが、平成25年では、転入と転出の差が縮まっています。

■人口自然増減



(資料) 京田辺市「京田辺市統計書」、厚生労働省「人口動態統計書」

■人口社会増減



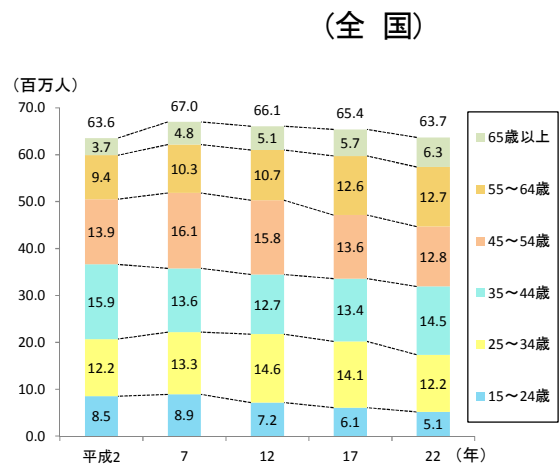
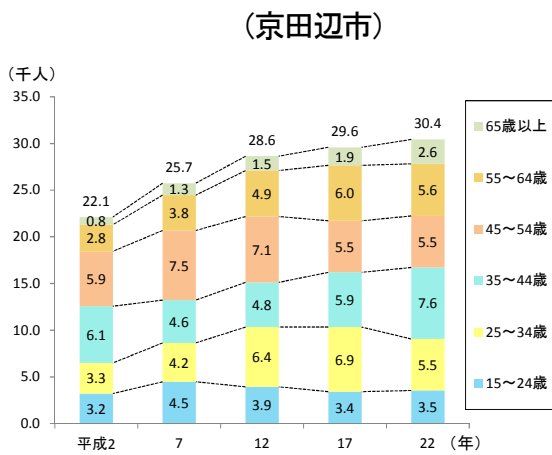
(資料) 京田辺市「京田辺市統計書」

(4) 労働力人口の推移

強み：若年層の労働力人口の多さ

労働力人口（就業者と、公共職業安定所に申し込むなどして積極的に仕事を探していた完全失業者を合わせたもの）については、平成7年以降、全国が減少傾向で推移するなか、京田辺市では増加傾向で推移しています。全国と同様の55歳以上での増加だけでなく、比較的若い年齢層での増加が認められ、特に平成17年から平成22年にかけては35～44歳で2千人近い増加があり、京田辺市の労働力人口を押し上げる状況となっています。

■労働力人口の推移



(資料) 総務省「国勢調査」

(5)人口流動の動向

強み：大学の存在により、若者が流入

他市町村から京田辺市への通勤・通学の流動をみると、通勤では京都府下の近隣地域や枚方市からの通勤者が多く、通学では京都市、大阪市などからの通学者が多くなっています。また、京田辺市から他市町村への通勤・通学の流動では、特に京都市、大阪市への通勤が多くなっています。

京都市や大阪市への交通利便性の高さから、通勤では、他都市への流出が多く、一方、通学では、大学があることもあり、他市町村からの流入が、流出の3倍となっています。

■通勤・通学流動(平成22年)
(他市町村から京田辺市)

①通勤		従業者数 (人)	構成比	②通学		通学者数 (人)	構成比
京田辺市で従業者者(総数)		24,868		京田辺市で通学者者(総数)		14,480	
うち京田辺市に常住している従業者		10,030		うち京田辺市に常住している通学者		4,399	
うち他市町村に常住している従業者		13,272	100.0%	うち他市町村に常住している通学者		9,020	100.0%
(1位)	京都市	1,680	12.7%	(1位)	京都市	1,283	14.2%
(2位)	城陽市	1,632	12.3%	(2位)	大阪市	739	8.2%
(3位)	枚方市	1,535	11.6%	(3位)	城陽市	417	4.6%
(4位)	宇治市	1,125	8.5%	(4位)	奈良市	404	4.5%
(5位)	八幡市	961	7.2%	(5位)	枚方市	357	4.0%
(6位)	精華町	899	6.8%	(6位)	宇治市	318	3.5%
(7位)	木津川市	887	6.7%	(7位)	神戸市	283	3.1%
(8位)	奈良市	652	4.9%	(8位)	大津市	239	2.6%
(9位)	大阪市	441	3.3%	(9位)	東大阪市	214	2.4%
(10位)	井手町	298	2.2%	(10位)	堺市	210	2.3%
(11位)	宇治田原町	220	1.7%	(11位)	木津川市	194	2.2%
(12位)	大津市	187	1.4%	(12位)	高槻市	189	2.1%
(13位)	交野市	177	1.3%	(13位)	生駒市	166	1.8%
(14位)	寝屋川市	148	1.1%	(14位)	吹田市	159	1.8%
(15位)	生駒市	146	1.1%	(15位)	精華町	157	1.7%
参考	京都府計(京田辺市を除く)	8,138	61.3%	参考	京都府計(京田辺市を除く)	2,731	30.3%
参考	大阪府計	3,315	25.0%	参考	大阪府計	3,235	35.9%

(京田辺市から他市町村)

①通勤		従業者数 (人)	構成比	②通学		通学者数 (人)	構成比
京田辺市に常住する就業者(総数)		28,826		京田辺市に常住する通学者(総数)		8,115	
うち京田辺市で従業者者		10,030		うち京田辺市に通学者者		4,399	
うち他市町村で従業者者		18,143	100.0%	うち他市町村に通学者者		2,994	100.0%
(1位)	京都市	3,724	20.5%	(1位)	京都市	969	32.4%
(2位)	大阪市	3,401	18.7%	(2位)	木津川市	205	6.8%
(3位)	枚方市	1,474	8.1%	(3位)	宇治市	178	5.9%
(4位)	八幡市	1,073	5.9%	(4位)	城陽市	168	5.6%
(5位)	城陽市	1,006	5.5%	(5位)	大阪市	158	5.3%
(6位)	宇治市	1,004	5.5%	(6位)	枚方市	153	5.1%
(7位)	久御山町	602	3.3%	(7位)	奈良市	150	5.0%
(8位)	木津川市	566	3.1%	(8位)	久御山町	59	2.0%
(9位)	奈良市	492	2.7%	(9位)	精華町	54	1.8%
(10位)	精華町	418	2.3%	(10位)	大東市	52	1.7%
(11位)	宇治田原町	351	1.9%	(11位)	寝屋川市	50	1.7%
(12位)	大東市	264	1.5%	(12位)	東大阪市	49	1.6%
(13位)	井手町	244	1.3%	(13位)	吹田市	47	1.6%
(14位)	東大阪市	225	1.2%	(14位)	草津市	43	1.4%
(15位)	門真市	222	1.2%	(15位)	八幡市	39	1.3%
参考	京都府計(京田辺市を除く)	9,233	50.9%	参考	京都府計(京田辺市を除く)	1,693	56.5%
参考	大阪府計	6,556	36.1%	参考	大阪府計	599	20.0%

注：1) 順位は人数順

注：2) 総数は従業地「不詳」を含む。

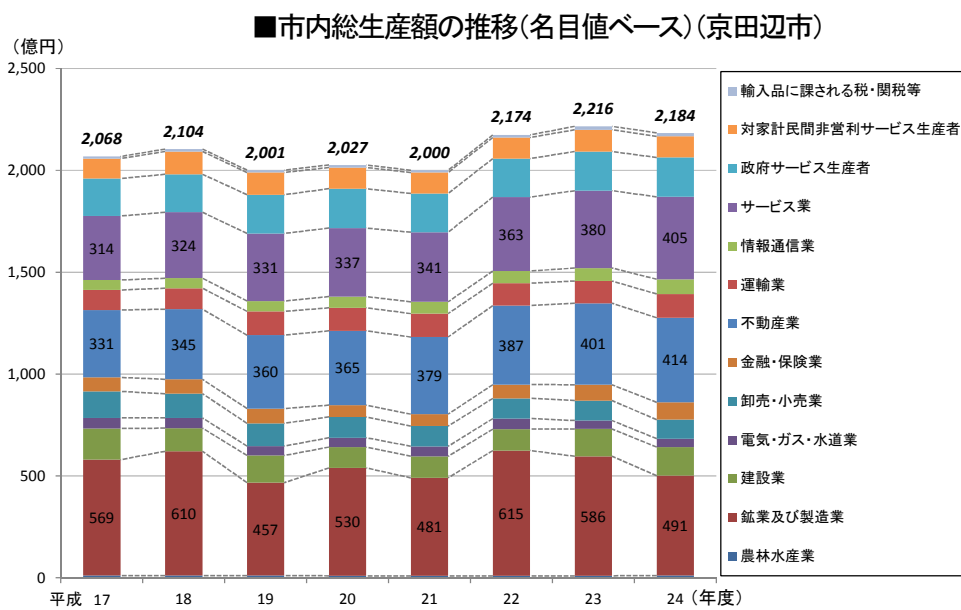
(資料) 総務省「国勢調査」(平成22年)

(6) 経済概況

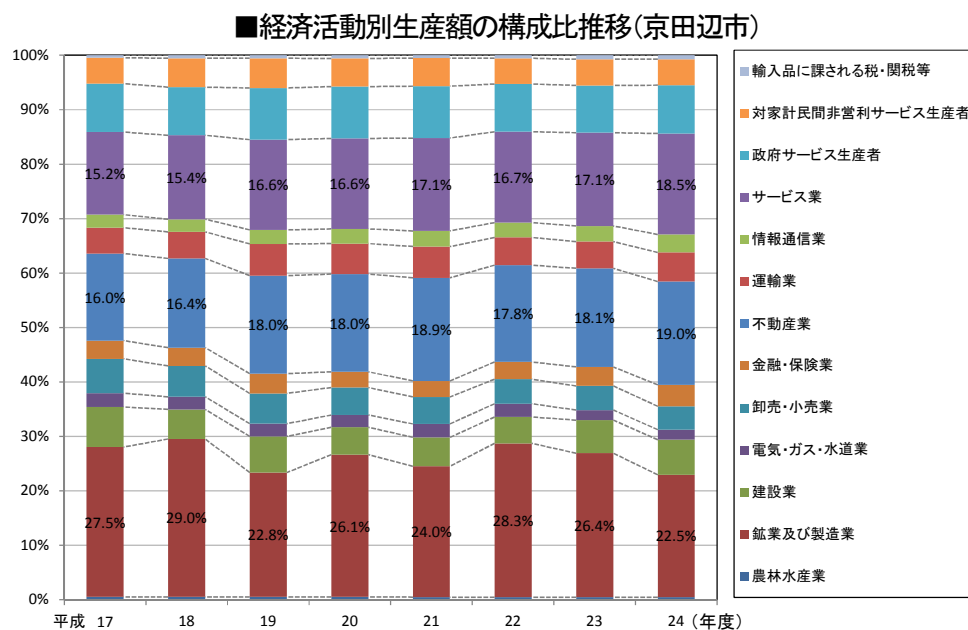
課題：製造業の生産額の伸び悩み

京田辺市の市内総生産額（1年間に生産された財貨やサービスの価値額の合計）は、平成19年度から平成21年度にかけて減少し、2,000億円程度で推移していましたが、平成22年度には回復し、以降は2,200億円前後で推移しています。

経済活動別にみると、サービス業、不動産業で生産額が増加する一方で、主要な割合を占める鉱業及び製造業では、伸び悩む状況がみられます。市内総生産額に占める割合も低下傾向にあり、全体の伸びを牽引できていない結果となっています。



(資料) 京都府「平成24年度市町村民経済計算」



(資料) 京都府「平成24年度市町村民経済計算」

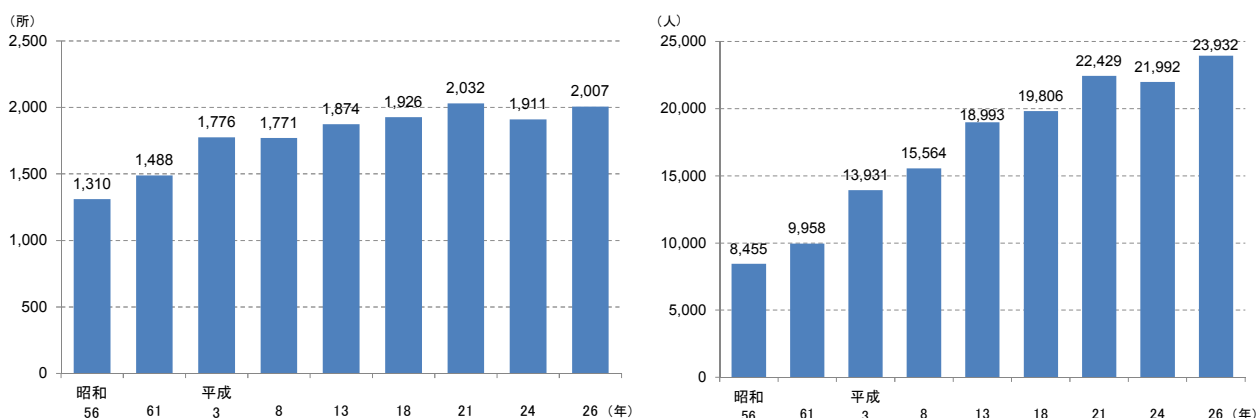
2 産業の概況

(1) 産業全般

事業所数、従業者数の推移をみると、昭和56年に1,310所であった事業所数は平成26年で約2,007所に、従業者数は8,455人から23,932人に増加しています。

従業者数ベースでの、業種別（大分類）の構成比をみると、京田辺市では、「製造業」をトップに、「医療、福祉」、「卸売業、小売業」、「教育、学習支援業」となっており、当該4業種で全体の6割強を占めています。

■事業所数(左)、従業者数(右)の推移(民営事業所ベース) (京田辺市)



(資料) 昭和56年～平成18年は総務省統計局「事業所・企業統計」(各年)、平成21年は総務省統計局「平成21年経済センサス-基礎調査」、平成24年は総務省統計局「平成24年経済センサス-活動調査」、平成26年は総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査」

■京田辺市と全国の業種別構成比(民営事業所:従業者数ベース、上位10業種)(平成26年)

順位	京田辺市			全国	
	業種	構成比	特化係数(対全国)	業種	構成比
1位	製造業	19.7%	1.23	卸売業、小売業	21.0%
2位	医療、福祉	17.0%	1.36	製造業	16.0%
3位	卸売業、小売業	16.7%	0.80	医療、福祉	12.5%
4位	教育、学習支援業	10.1%	3.21	宿泊業、飲食サービス業	9.6%
5位	宿泊業、飲食サービス業	9.5%	0.99	サービス業(他に分類されないもの)	8.1%
6位	運輸業、郵便業	6.3%	1.12	建設業	6.6%
7位	サービス業(他に分類されないもの)	4.7%	0.58	運輸業、郵便業	5.7%
8位	生活関連サービス業、娯楽業	4.2%	0.97	生活関連サービス業、娯楽業	4.4%
9位	建設業	4.0%	0.61	教育、学習支援業	3.1%
10位	不動産業、物品賃貸業	3.0%	1.15	学術研究、専門・技術サービス業	3.1%
-	その他	4.7%	-	その他	10.0%

注：特化係数とは、産業の業種構成などにおいて、その構成比を全国の構成比と比較したもの。地域で卓抜した業種を見る指標。
(資料) 総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査」

(2) 農業の動向

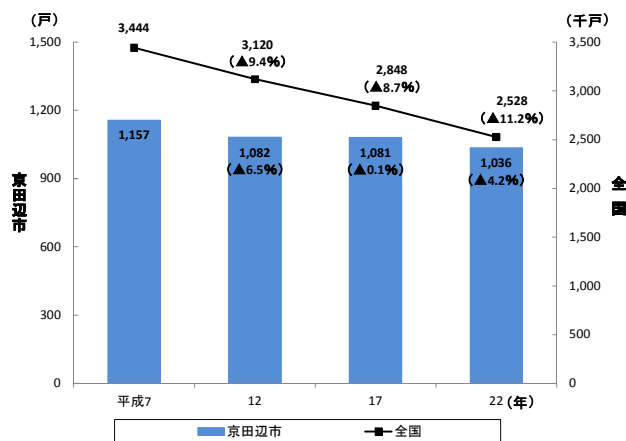
課題：経営耕地面積、農家数の減少

農家総数は、平成7年以降、微減の傾向で推移しています。農家の専業・兼業の構成比の推移をみると、全国に比べ第2種兼業農家の構成比が高くなっています。

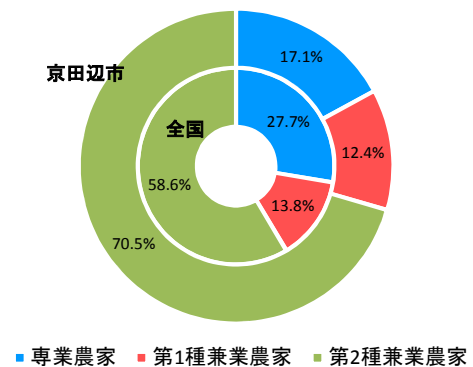
また、専業農家数、第1種兼業農家数はほぼ横ばいで推移していますが、農産物販売金額の高い農家が減少し、特に700万円以上の販売金額のある農家数は半減しています。

平成12年以降の経営耕地面積の動向をみると、田が減少傾向で推移する中、畑は増加傾向で推移し、樹園地は、平成17年に減少したものの平成22年には増加に転じています。

■ 農家総数の推移



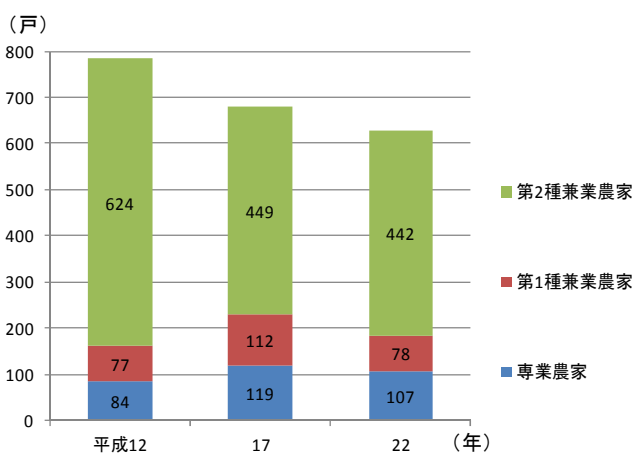
■ 専業・兼業の構成比(平成22年)



注：()内は対前年増減率。
 (資料) 農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

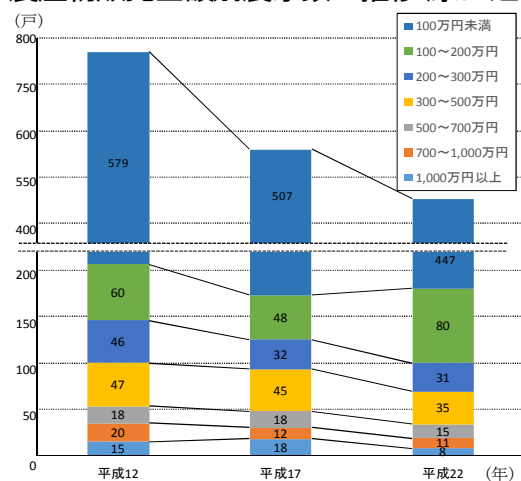
(資料) 農林水産省「2010世界農林業センサス」

■ 専業・兼業農家数の推移(京田辺市)



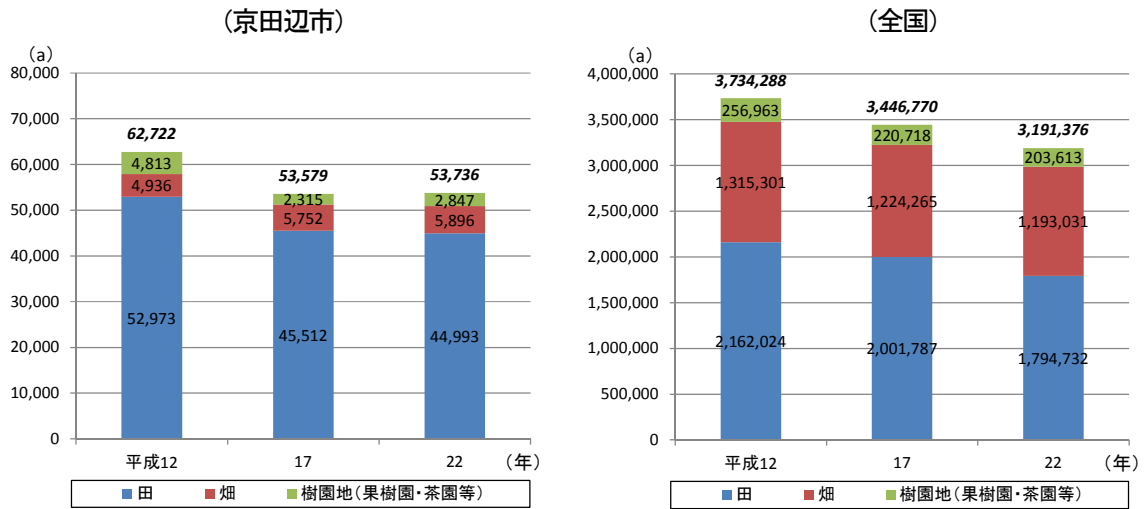
(資料) 農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

■ 農産物販売金額別農家数の推移(京田辺市)



(資料) 農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

■経営耕地面積の推移



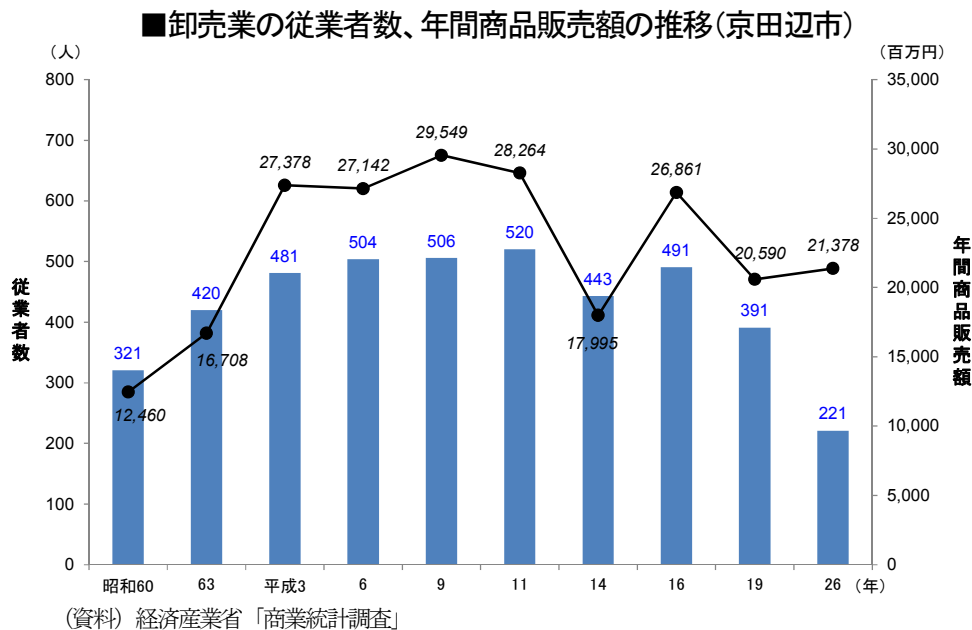
(資料) 農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

注：「(2) 農業の動向」における農林業センサス・世界農林業センサスのデータについては、平成12年は経営耕地面積が10a未満、かつ年間販売金額が15万円未満の農家は対象外、平成17・22年は販売農家（経営耕地面積が30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家）のみ対象として集計している。

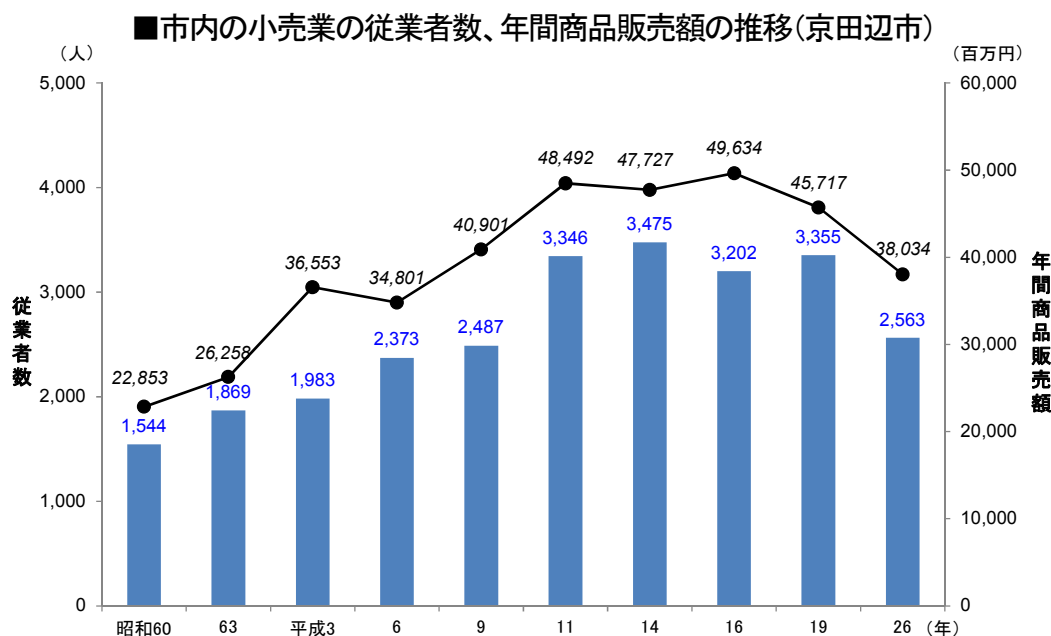
(3) 商業の動向

課題：小売吸引力の弱さ（消費が市外に流出している）

卸売業の従業者数は、昭和60年以降、平成11年までは、増加傾向で推移してきましたが、平成14年に減少し、一度は持ち直したものの、ピーク時の水準には回復できていません。年間商品販売額も、同様の傾向で推移しています。



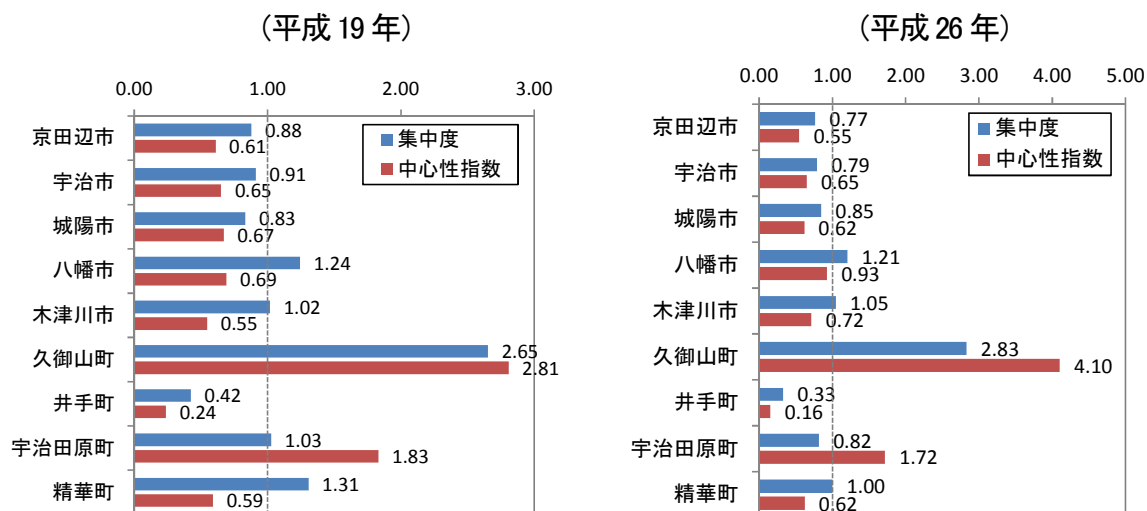
小売業の従業者数は、平成14年まで増加傾向で推移し、その後、平成19年までは横ばいで推移していましたが、平成26年には減少しています。年間商品販売額は、平成16年まで増加傾向で推移していましたが、平成19年、平成26年は減少する状況となっています。



(資料) 経済産業省「商業統計調査」

小売業売場面積の集中度(人口あたりの小売業売場面積について、各市の値を府県の平均で割った値)、中心性指数(人口あたりの小売業年間商品販売額について、各市の値を府県の平均で割った値)を近隣市町と比較すると、京田辺市は、総じて他市町に比べ低く、市外からの顧客を吸引できていない状況にあり、さらには、消費の市外流出も発生しているものと考えられます。

■小売業売場面積の集中度と中心性指数

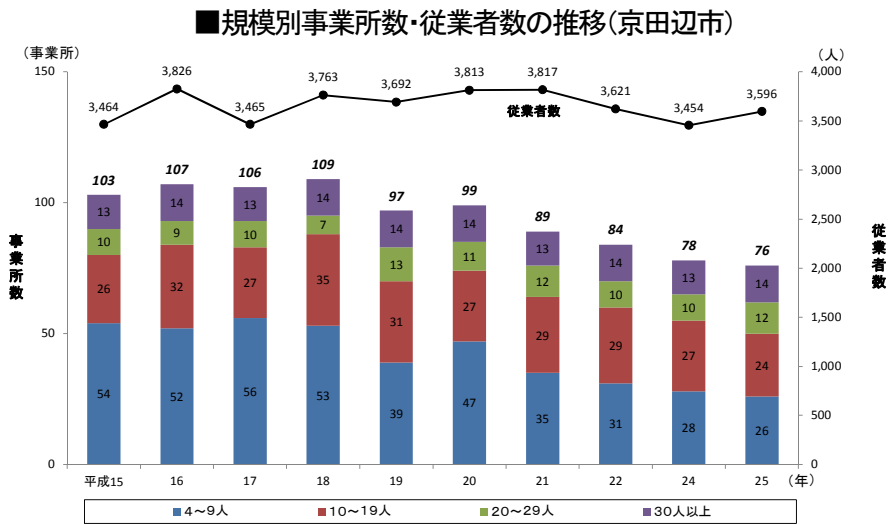


(資料) 経済産業省「平成19年商業統計調査」、総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査」

(4) 製造業の動向

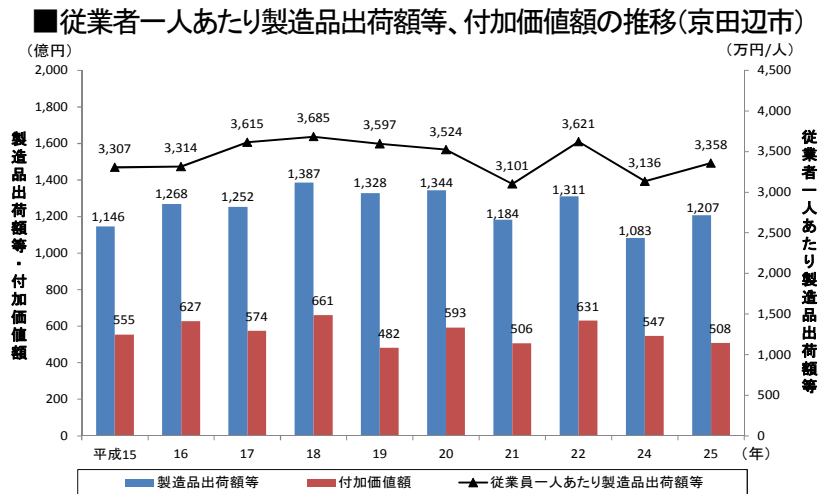
課題：事業所数、従業者数、製造品出荷額等の減少

平成15年以降の事業所数の推移をみると、平成18年をピークに減少傾向で推移しています。特に、従業者規模が4～9人の事業所の減少が大きく、平成25年でピーク時の半数程度まで落ち込んでいます。従業者数は総数ベースで長期的には横ばいで推移している状況でしたが、平成22年、平成24年と減少したのち、平成25年で若干、回復する状況となっています。



注：各数値は、従業者4人以上の事業所の数値。
 (資料) 経済産業省「工業統計調査」

製造品出荷額等は、平成21年のリーマン・ショックの影響により減少し、平成22年には以前の水準に回復しましたが、平成24年に再び減少しており、平成25年に至っても以前の水準にまで回復できていない状況です。



注：1) 付加価値額とは、生産額－(消費税を除く内国消費税額+推計消費税額)－原材料使用額等－減価償却額。
 注：2) 従業者29人以下の事業所は、付加価値額を粗付加価値額で計算する。
 (資料) 経済産業省「工業統計調査」

中分類ベースでの、従業者数、製造品出荷額等の特化係数、構成比をみると、特化係数が高い業種は、「印刷・同関連業」、「はん用機械器具」であり、構成比が高い業種は、前述の2業種に加え、「食料品」があり、製造品出荷額等においては、この3業種で、全体の7割強を占めています。

京都府内におけるシェアをみると、従業者数ベースでは、「はん用機械器具」が約20%となっています。製造品出荷額等でみると、「はん用機械器具」が約22%、「印刷・同関連業」が約16%となっており、当該2業種は、京都府内においても、京田辺市の製造業を特徴づけるものとなっています。

■京田辺市と全国における製造業従業者数の構成比(上位10業種)(平成25年)

順位	京田辺市			全国	
	業種	構成比	特化係数 (対全国)	業種	構成比
1位	はん用機械器具	24.2%	5.68	食料品	14.9%
2位	印刷・同関連業	22.1%	5.92	輸送用機械器具	13.1%
3位	食料品	10.9%	0.73	金属製品	7.7%
4位	窯業・土石製品	6.5%	1.99	生産用機械器具	7.3%
5位	電子部品・デバイス・電子回路	5.2%	0.99	電気機械器具	6.4%
6位	パルプ・紙・紙加工品	5.1%	2.07	プラスチック製品	5.5%
7位	業務用機械器具	4.8%	1.77	電子部品・デバイス・電子回路	5.2%
8位	電気機械器具	4.4%	0.69	化学工業	4.6%
9位	金属製品	3.3%	0.42	はん用機械器具	4.3%
10位	輸送用機械器具	3.2%	0.24	繊維工業	3.7%
-	その他	10.4%	-	その他	27.2%

(資料) 経済産業省「工業統計調査」(平成25年)

■京田辺市と全国における製造品出荷額等の構成比(上位10業種)(平成25年)

順位	京田辺市			全国	
	業種	構成比	特化係数 (対全国)	業種	構成比
1位	食料品	28.1%	3.29	輸送用機械器具	19.9%
2位	印刷・同関連業	23.9%	12.90	化学工業	9.4%
3位	はん用機械器具	21.3%	6.08	食料品	8.5%
4位	パルプ・紙・紙加工品	6.5%	2.83	鉄鋼業	6.1%
5位	電子部品・デバイス・電子回路	4.9%	1.10	石油製品・石炭製品	6.1%
6位	窯業・土石製品	4.1%	1.72	電気機械器具	5.3%
7位	輸送用機械器具	1.9%	0.10	生産用機械器具	5.2%
8位	業務用機械器具	1.7%	0.74	金属製品	4.5%
9位	電気機械器具	1.4%	0.26	電子部品・デバイス・電子回路	4.4%
10位	生産用機械器具	1.1%	0.22	プラスチック製品	3.8%
-	その他	5.0%	-	その他	26.7%

(資料) 経済産業省「工業統計調査」(平成25年)

■業種別での京田辺市の京都府内におけるシェア(上位 10 業種)(平成 25 年)

(従業者数)

順位	業種	対京都府 シェア
1位	はん用機械器具	20.3%
2位	印刷・同関連業	9.7%
3位	食料品	1.9%
4位	窯業・土石製品	6.4%
5位	電子部品・デバイス・電子回路	2.1%
6位	パルプ・紙・紙加工品	5.4%
7位	業務用機械器具	1.8%
8位	電気機械器具	1.2%
9位	金属製品	1.5%
10位	輸送用機械器具	1.3%
	製造業平均	2.7%

(製造品出荷額等)

順位	業種	対京都府 シェア
1位	食料品	8.2%
2位	印刷・同関連業	15.6%
3位	はん用機械器具	22.3%
4位	パルプ・紙・紙加工品	7.5%
5位	電子部品・デバイス・電子回路	1.7%
6位	窯業・土石製品	3.1%
7位	輸送用機械器具	0.5%
8位	業務用機械器具	0.7%
9位	電気機械器具	0.5%
10位	生産用機械器具	0.5%
	製造業平均	2.6%

(資料) 経済産業省「工業統計調査」(平成 25 年)

(5) 観光の動向

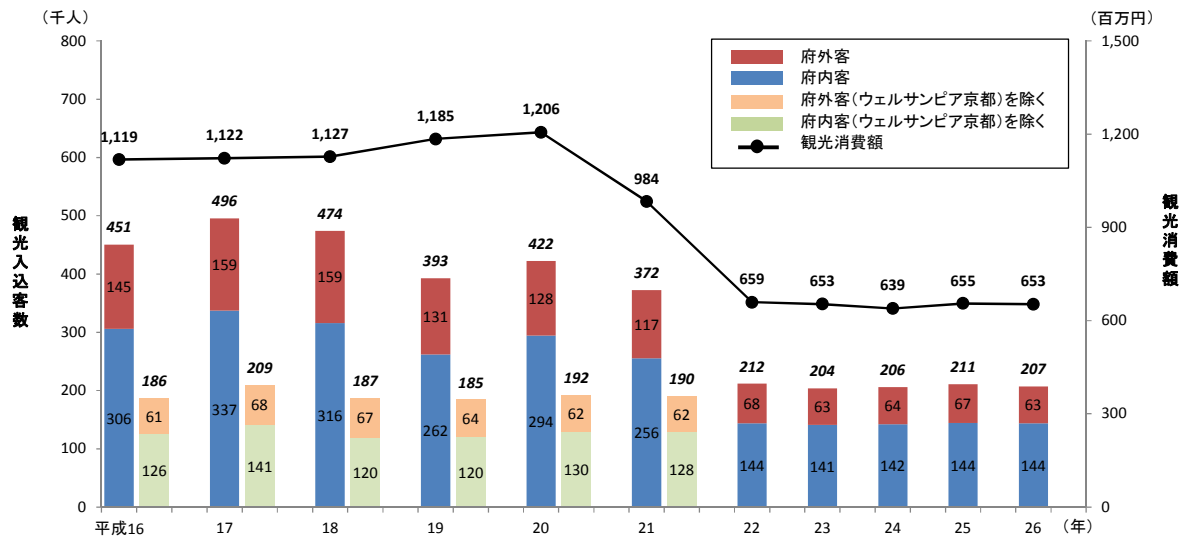
課題：宿泊施設の撤退による観光客の減少

観光入込客数は、平成 21 年頃までは概ね横ばいで推移し、観光消費額は、平成 20 年までは堅調に推移していましたが、宿泊施設（ウエルサンピア京都）の閉鎖等により、平成 21 年に落ち込んだ水準のままで推移する状況となっています。

観光入込客数を、施設・イベント別にみると、施設では、宿泊施設（ウエルサンピア京都）の閉鎖の影響で大きく落ち込む状況となっていますが、当該施設を除いて推移をみると、平成 16 年の 14 万人から、平成 26 年には 18 万人を超えるまで増加しています。一方、イベントは、減少傾向で推移し、平成 23 年以降は 3 万人を下回る状況で推移しています。

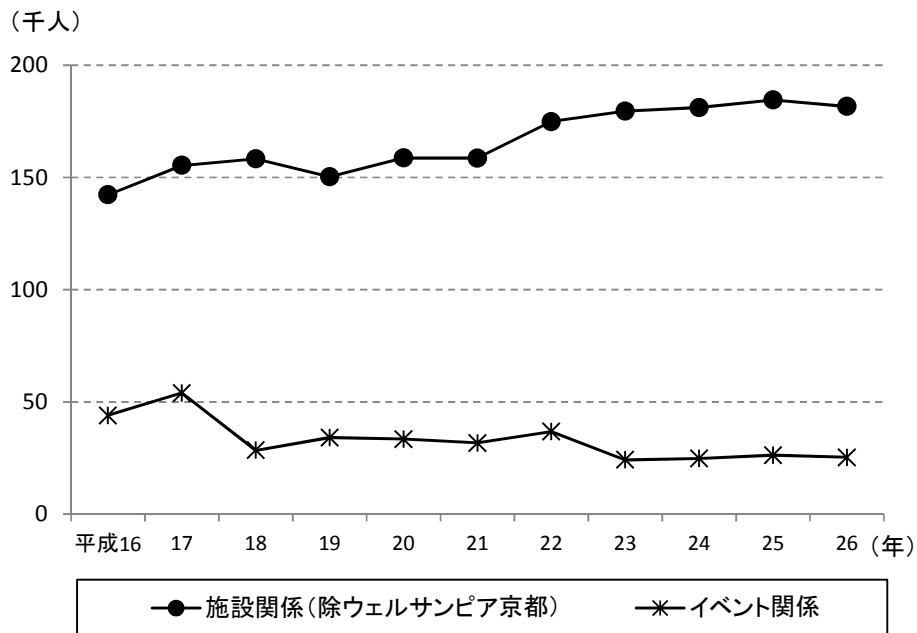
観光入込客数が低迷しており、消費額の伸びが他市に比べて低い水準で推移していることから、観光による市経済の活性化を促すためには、観光客の誘客もさることながら消費をしてもらいやすい仕組みづくりが大きな課題となっています。

■観光入込客数・消費額の推移(京田辺市)



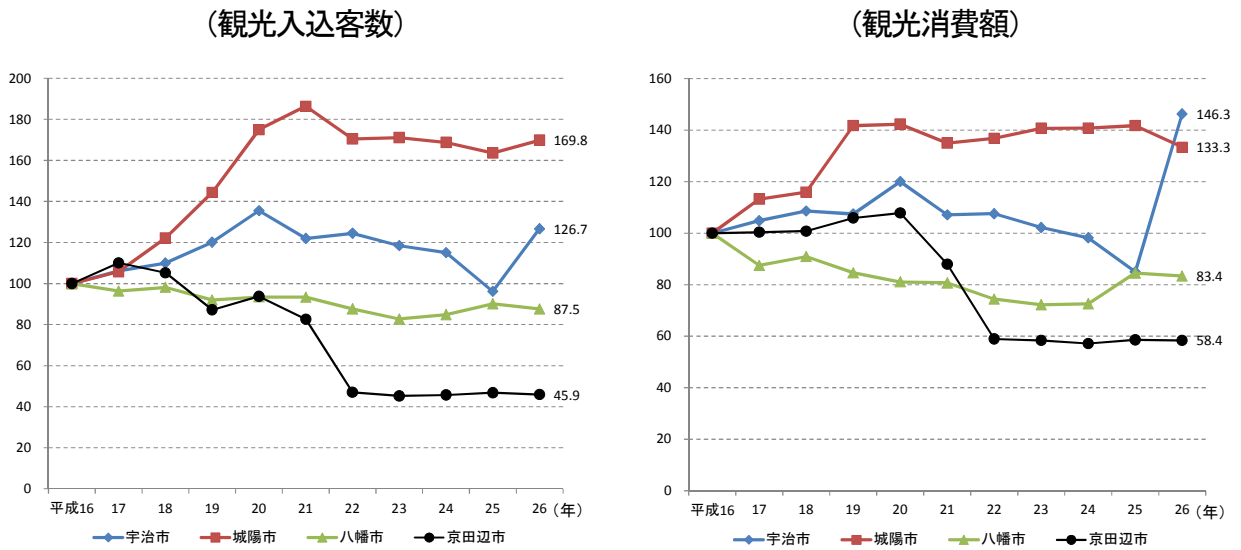
(資料) 京都府「観光入込客数調査」

■観光入込客数(施設・イベント別)の推移(京田辺市)



(資料) 京都府「観光入込客数調査」

■京田辺市と近隣市の観光入込客数・観光消費額の推移比較(市別:平成16年=100とした場合)



(資料) 京都府「観光入込客数調査」

■京田辺市の観光入込客数の推移(施設・イベント別)

①施設

	平成16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	H16→26 増減率
酬恩庵(一休寺)	33,300	38,210	36,790	37,690	33,280	41,450	36,150	38,341	36,120	35,438	37,269	11.9%
田辺カントリー倶楽部	25,150	24,625	27,011	28,105	26,048	23,511	25,958	26,040	25,249	26,650	27,268	8.4%
野外活動センター	9,119	12,208	10,898	12,422	13,271	14,906	13,139	12,409	12,210	10,267	11,464	25.7%
甘南備山	30,000	28,500	25,000	26,000	25,000	25,800	51,878	56,600	58,500	64,600	64,760	115.9%
観音寺	2,921	2,473	3,065	3,945	3,542	4,570	5,746	5,473	7,640	6,061	7,228	147.4%
寿宝寺	280	275	273	315	365	425	1,490	1,884	1,816	1,530	1,095	291.1%
西八さわか朝市	4,900	4,150	4,150	4,250	11,520	4,260	4,750	4,700	5,050	5,150	4,710	-3.9%
普賢寺ふれあいの駅	33,932	38,650	45,300	31,460	39,900	39,293	31,650	30,085	30,683	30,840	24,782	-27.0%
山本駅朝市	1,200	2,210	1,520	1,500	1,210	1,230	1,230	1,230	1,230	1,230	1,230	-
虚空蔵谷川(桜並木)	1,000	800	1,000	1,200	800	900	900	700	900	800	800	-20.0%
ぼたん園	568	3,323	3,319	3,462	2,842	1,936	2,556	2,655	2,420	2,755	1,982	248.9%
澤井家住宅	-	-	-	-	987	416	762	714	609	510	310	-
ウエルサンピア京都	264,167	286,362	287,426	208,307	230,069	181,660	-	-	-	-	-	-
計	406,537	441,786	445,752	358,656	388,834	340,357	174,979	179,601	181,197	184,601	181,668	-55.3%
〔ウエルサンピア京都を除く計〕	142,370	155,424	158,326	150,349	158,765	158,697	174,979	179,601	181,197	184,601	181,668	27.6%

注: 「-」はデータなし「/」は廃止または休止

②イベント

	平成16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	H16→26 増減率
キラフェスティバル	-	15,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	5,000	8,000	5,000	5,000	-
産業祭	40,000	35,000	15,000	20,000	20,000	18,000	23,000	15,000	12,000	12,000	12,000	-70.0%
大住隼人舞	850	850	950	900	910	915	1,000	800	1,000	1,000	1,000	17.6%
一休さんウォーク	1,481	1,386	620	1,169	451	543	890	1,005	1,017	1,284	1,132	-23.6%
新春甘南備山初登り	780	796	615	687	687	762	678	680	710	710	691	-11.4%
二月堂竹送り	100	100	200	200	300	250	250	200	350	300	300	200.0%
茶まつり	500	450	450	500	450	500	475	1,000	1,000	1,000	1,000	100.0%
花見ウォーク	311	429	616	708	697	739	508	492	700	280	446	43.4%
観音寺周辺ライトアップ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	900	1,227	-
一休バル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,815	2,528	-
計	44,022	54,011	28,451	34,164	33,495	31,709	36,801	24,177	24,777	26,289	25,324	-42.5%

注: 観音寺周辺ライトアップ、一休バルは平成25年から開始。

(資料) 京都府「観光入込客数調査」

3 京田辺市産業の現状のまとめと課題

(1) 京田辺市に立地する上での長所

交通利便性の高さ、一定の市場規模、取引先に近い

京田辺市における高速道路や鉄道などの交通利便性は、製造業の事業者のほか、観光・まちづくり関連の団体など、業種を超えて評価されています。

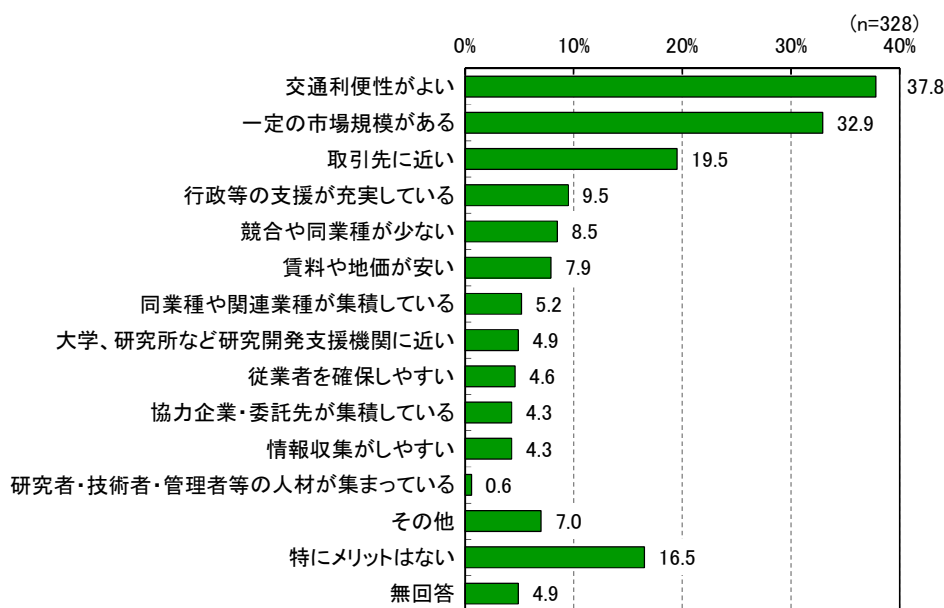
また、アンケートで回答数上位4位に入った「行政等の支援が充実している」という評価については、ヒアリングにおいても同様の意見が聞かれ、京田辺市の産業政策はこれまで事業者から一定の評価を得てきたことがうかがえます。

アンケート調査

■事業者における京田辺市に立地する上での長所

【回答数上位3項目】

①交通利便性がよい ②一定の市場規模がある ③取引先に近い



(資料) 京田辺市「京田辺市産業振興ビジョン策定に向けた事業者アンケート調査」

ヒアリング調査

- ・京奈和道、第二京阪、京都縦貫道など、物流環境が充実している。
- ・ロケーションが交通の要所。関西においてどこへ行くにも便利で効率が良い。
- ・子育て環境が充実しており、従業員の居住環境として良い。

(2)京田辺市に立地する上での課題

競合先が多い、人材の集めにくさ、市内交通網の脆弱さ、宿泊施設がない

企業へのヒアリングで特に聞かれた意見は、パートタイマーをはじめとする人材の確保の難しさでした。

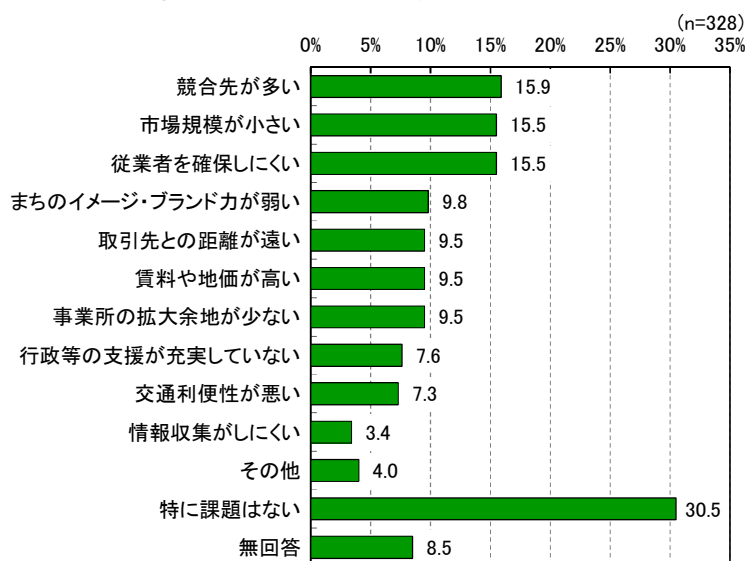
また、高速道路や鉄道網等の市外からのアクセスは便利である一方で、市内交通網は脆弱でアクセスが悪く（バスが少ないなど）、従業員の通勤環境を課題に挙げる声が多くありました。このほか、宿泊施設がないため、観光客の集客が難しいという意見や、出張者の対応に困るという意見もありました。

アンケート調査

■事業者における京田辺市に立地する上での課題

【回答数上位3項目】

①競合先が多い ②市場規模が小さい、従業員を確保しにくい



(資料) 京田辺市「京田辺市産業振興ビジョン策定に向けた事業者アンケート調査」

ヒアリング調査

- ・バスの便が非常に悪く、従業員の通勤が不便。
- ・パート・アルバイトが集まらない。市内在住者はなかなか応募がないので、周辺市町まで広げて募集している。
- ・来客を接待できる店がない。海外からの来客を接待するときは京都市内まで行っている。
- ・宿泊施設がないので、出張者は京都か大阪のホテルに泊まっている。

(3) 事業者が抱える課題

人材の確保と新規顧客の獲得

事業者の事業上の課題は、人材確保、新規顧客の獲得が2大課題となっています。

特に、新規顧客の獲得においては、小規模企業でその意識が高くなっており、新たな需要にきめ細かく対応できる小規模企業の特徴を生かし、事業の持続的発展と新たな事業展開が図られるよう重点的に支援していく必要があります。

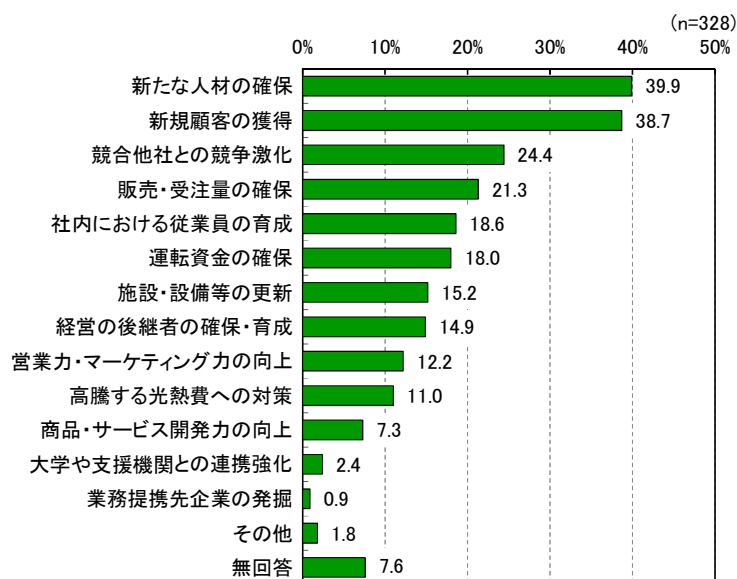
人材確保については、企業の認知度を高める取組、新規顧客の獲得に向けては、市内事業者間の情報交流を進めて互いの事業内容やできることを知り、取引の拡大につなげる必要があるといった意見が挙がっています。

アンケート調査

■事業者が直面している課題

【回答数上位3項目】

①新たな人材の確保 ②新規顧客の獲得 ③競合他社との競争激化



(資料) 京田辺市「京田辺市産業振興ビジョン策定に向けた事業者アンケート調査」

ヒアリング調査

- ・パート・アルバイトをはじめとする人材の確保が難しい。
- ・企業同士がやっていること、持っている設備などを互いに知り合う機会が必要。
- ・インキュベーション施設 (D-egg) を卒業した後に進出する場所を確保する必要がある。

(4)京田辺市に求められる取組

【農業】 農業基盤の充実、農地の流動化、直売所の充実、地域ブランド化の推進

【商業】 特徴ある個人店舗の充実

【工業】 製品開発、新分野進出、人材育成に向けた支援

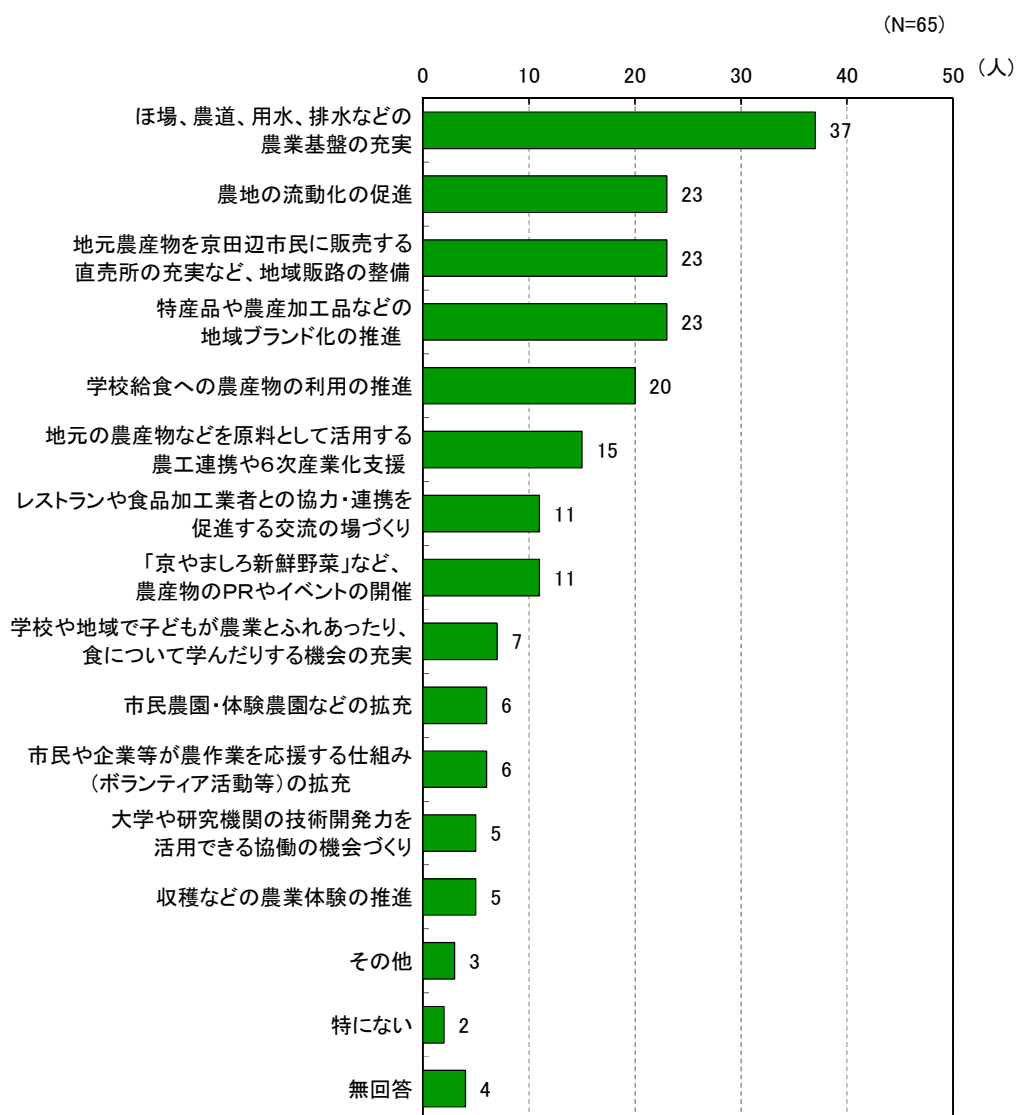
【観光】 周辺市との連携、市民が郷土に愛着が持てる取組、関西大都市圏からの誘客

アンケート調査

■ 農業者が求める農業振興施策

【回答数上位3項目】

①農業基盤の充実 ②農地の流動化 ③地元農産物の市民への販売、地域ブランド化の推進

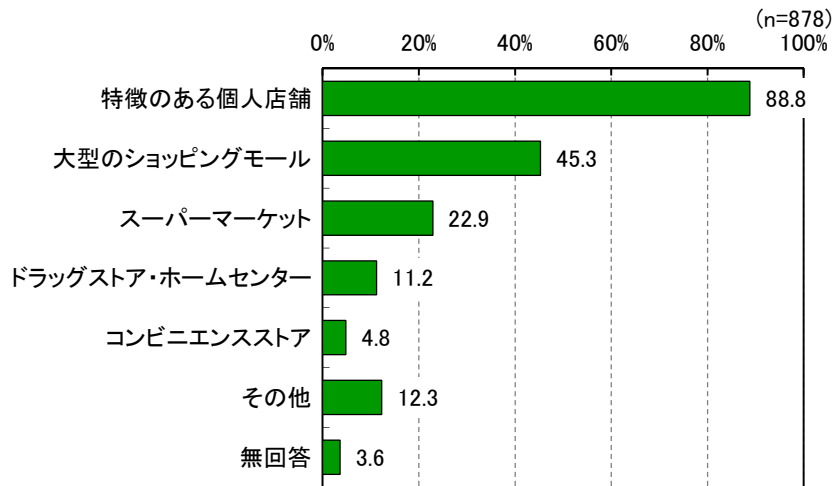


(資料) 京田辺市「京田辺市産業振興ビジョン策定に向けた農業者アンケート調査」

■市民が求める商業施設

【回答数上位3項目】

- ①特徴ある個人店舗 ②大型ショッピングモール ③スーパーマーケット

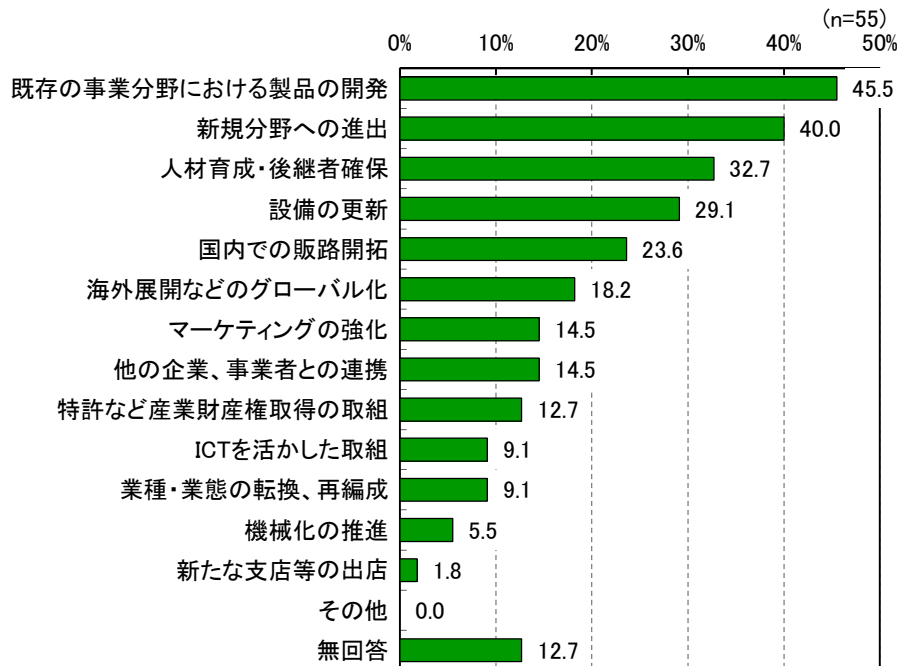


(資料) 京田辺市「京田辺市産業振興ビジョン策定に向けた市民アンケート調査」

■製造業者が現在力を入れている・今後力を入れたい取組

【回答数上位3項目】

- ①既存事業分野における製品開発 ②新規分野への進出 ③人材育成・後継者確保

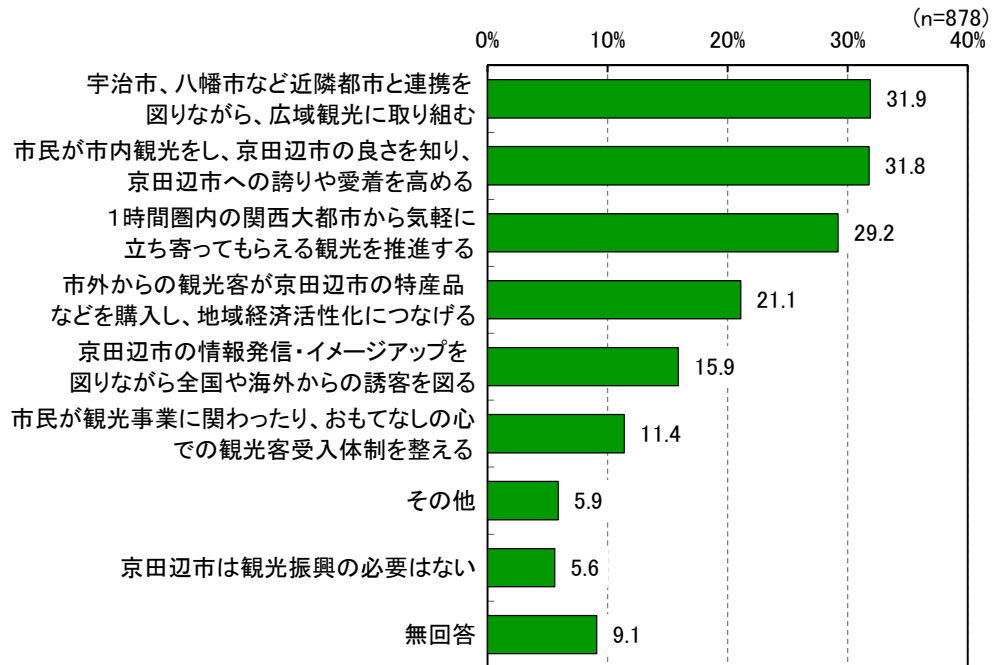


(資料) 京田辺市「京田辺市産業振興ビジョン策定に向けた事業者アンケート調査」

■京田辺の観光振興として望ましい取組

【回答数上位3項目】

①近隣都市との連携による広域観光 ②市民が市の良さを知る ③関西大都市圏からの誘客



(資料) 京田辺市「京田辺市産業振興ビジョン策定に向けた市民アンケート調査」

ヒアリング調査

- ・特産品などをもっと知ってもらう機会を作ることが必要（農業）。
- ・商業地区全体のまちづくりのビジョンが見えないと、再投資しにくいのではないかと（商業）。
- ・市民と企業の接点が少ない。市内で調達先が見つからない（工業）。
- ・ビジョンをベースにして、観光関係機関の連携を進めていく必要がある（観光）。